令和6年度 兵庫県 英語教育改善プラン

目標

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を目指し、教師の指導力向上を目指した研修等の実施に努める。

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①授業において、児童が英語で言語活動をしている時間の占める割合が50%以上の学校が増加している。
(5年・R4:89.0%⇒R5:92.6%)
(6年・R4:89.5%⇒R5:93.4%)

②児童が1人1台端末等を活用する授業を積極的に行っている学校が増加している。
(R4:38.4%⇒R5:42.9%)

未だ改善が必要な点

①CEFR B2以上を取得している小学校教員の割合は微増ではあるが、依然低い状況である。
(R4:5.0%⇒R5:5.8%)

2. 要因分析

①②指導資料「英語教育の充実に向けて」や「小学校外国語教育指導用映像資料」の作成・周知や研修会の実施など、指導力向上に向けた施策等の効果が出ていると考えられる。

①外部検定制度の活用等について周知を行っているが、利用する教員は少ないと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①

(1) 専科教員の指導力向上研修の実施
外国語の専科教員の指導力向上を図るため、主体的・対話的で深い学びの実現に向けて実践研修を実施することを通して、児童の学力向上及び指導体制の充実を図るための研修会を開催している。

(2) ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた調査研究事業
デジタル教科書の児童生徒への学習効果、有効な指導方法、授業でのICTの活用状況等の把握及び好事例の収集・周知を図ることで、ICTを活用した「主体的・対話的で深い学び」を全県的に促進し、教育の質の向上を図る。

(3) 英語教育改善プランのまとめ (R3作成)
活用についてさらに周知を進め、教員の指導力向上を目指している。
・パフォーマンス評価の在り方
・学習指導要領に基づく指導方法の工夫

令和6年度 兵庫県 英語教育改善プラン

目標

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の促進を目指し、県独自に行っている施策の周知徹底を図る。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R5実績：42.3%⇒R6目標：52.0%）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①令和5年度全国学力・学習状況調査では、概ね全国平均と同程度の正答率となっている。

(R5:兵庫県47・全国46)

②英語教育に関して、小学校と情報交換や交流、カリキュラムの作成等を行った学校が増加している。

(R4:63.0%⇒R5:69.7%)

未だ改善が必要な点

①授業において、生徒が英語で言語活動をしている時間の占める割合が50%以上の依然低い状況である。

(R4:61.8%⇒R5:61.4%)

②教員が発話の50%以上を英語で行っている割合が減少している。

(R4:59.7%⇒R5:55.0%)

2. 要因分析

①①言語活動を積極的に行っている学校ほど、正答率が高い傾向にある。

②中1でのつまずきがないように、小中で連携をとる学校が増えていると考える。

①②授業において、教員、児童生徒の英語による発話の割合が低いことから、依然として従来の教科書のリーディング中心の授業を行っている学校があることが考えられる。

②教員のCEFR B2以上の取得状況と英語での授業実施の相関から、資格のない教員ほど、英語での発話が中心の授業に自信がないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①英語教育改善プランのまとめ（R3作成）の活用についてさらに周知を進め、引き続き教員の指導力向上を目指すことで生徒の英語力向上を図る。

県作成教材「Englishつまずき予防ワークシート」及び「はば単2,500」を活用して、生徒のつまずきを予防し、生徒の英語力向上を目指す。

①①全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた教科特有の「見方・考え方」を働かせる授業改善の指導事例集「学びのデジタルガイド」と、デジタルガイドで取り上げた事例の学びと日常生活を結びつける児童生徒向けの「デジタルガイド+プラス」を県内の中学校に周知し、生徒の英語力向上を目指す。

県が生徒の英語力向上に向けた取組推進のポイントをまとめた「言語活動が英語力UP！につながる」「作ってみよう！使ってみよう！『CAN-DOリスト』」を周知することで授業改善を目指す。

②教員の英語力向上を図るために、外部検定割引制度の活用等について引き続き周知する。

令和6年度 兵庫県 英語教育改善プラン

目標

HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクトや指導力向上研修等において授業改善に向けた言語活動及び学習評価の充実に取り組み、生徒の英語力の向上を目指す。

○CEFRA2、B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R5実績：A2以上 57.2%、B1以上 21.0% ⇒R6目標：A2以上 54.0%以上、B1以上 27.0%)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が増加。
(R4:54.8%⇒R5:57.2%)

②「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の達成状況を把握している学校の割合が増加。
(R4:47.9%⇒R5:55.2%)

未だ改善が必要な点

①CEFR B1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が減少。
(R4:25.8%⇒R5:21.0%)

②授業中、50%以上の時間、英語による言語活動を行っている学校の割合が減少。
(R4:80.4%⇒R5:77.4%)

※普通科英語コミュニケーションⅠ及び英語・国際系を除く専門学科及び総合学科の英語コミュニケーションⅠを抽出し、県独自に算出した値。

2. 要因分析

①②「指導力向上研修」や「学力向上研究事業」等において、発信能力育成のための英語授業改善や効果的なパフォーマンステストの活用についての講演・ワークショップ等を実施したことで、授業改善やCAN-DOリストを活用したパフォーマンス評価の充実が図られ、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合が増加したと考えられる。

①CEFR B1レベル相当以上の英語力を測るパフォーマンステストの実践研究が十分でなく、各校での実施につながらなかったと考えられる。

②ALTによる指導やICTを活用した言語活動の研修が十分に実施できず、一部の科目において言語活動の実施率が減少したと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①グローバルリーダーとして活躍する人材育成の推進
新規事業「HYOGOグローバルリーダー育成プロジェクト」を通じて、指定校を中心に英語学習支援アプリとALTによる指導を有機的に融合させた授業実践研究を行い、CEFR A2レベル相当以上の英語力を有すると思われる生徒の割合を増加させる。
また、各校において探究活動の充実を図る中で、英語による発表の機会等を設定し、CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の育成を図る。
あわせて、同事業にて海外留学支援を拡充し、英語力をはじめとするグローバルリーダーとしての資質を備えた人材を育成する。

②CAN-DOリスト改訂の推進
「指導力向上研修」や「学力向上研究事業」等において、引き続きパフォーマンス評価等についての研修や授業研究等を実施する。それにより、各校における学習評価のさらなる充実を図るとともに、CAN-DOリストの改訂を推進する。

②ALT及びICTを活用した言語活動の充実
上記プロジェクトにおける「英語力向上のための研究と実践」事業の指定校を中心に、ALTによる指導やICTを活用した言語活動の充実を図るとともに、その成果を全県に波及させる。

兵庫県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52.0	57.2	54.0		56.0		58.0		60.0		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	26.0	21.0	27.0		28.0		29.0		30.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	65.7	100		100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	38.0	38.8	41.0		44.0		47.0		50.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	95.8	100		100		100		100	
		公表(%)	100	66.1	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	65.0	55.2	65.0		66.0		67.0		68.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	90.0	88.4	90.0		91.0		92.0		93.0		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	47.3	100		100		100		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50.0	42.3	52.0		55.0		58.0		60.0		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90.0	61.4	90.0		92.0		92.0		95.0		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	74.0	71.8	76.0		77.0		78.0		80.0		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	90.0	73.2	90.0		90.0		92.0		95.0	
		公表(%)	50.0	37.4	50.0		50.0		52.0		55.0	
		達成状況の把握(%)	70.0	55.9	70.0		70.0		72.0		75.0	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	45.0	43.5	50.0		52.0		54.0		55.0		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	90.0	55.0	90.0		90.0		90.0		90.0			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	70.0	62.8	70.0		72.0		74.0		75.0
		公表(%)	35.0	29.5	35.0		37.0		39.0		40.0
		達成状況の把握(%)	60.0	52.6	60.0		62.0		64.0		65.0